

緑の架け橋

会報第 10 号

2007年6月25日

第7回植林緑化派遣団 (2007年4月13日~17日)

初遭遇。風沙と寒波の中での植林活動

～第7回植林緑化派遣団 (2007年4月) 報告～



寒風の中、平羅県での第三期植樹式 2007/4/14

「緑の大地へ」ゆっくりと着実に前進する日中友好の架け橋づくり

さる4月13日(金)～17日(火)、第7回植林緑化派遣団が、佐藤晴男・緑の架け橋推進センター会長を団長に総勢12名の参加で実施されました。

今回は、2006年度(2006年11月～2007年10月)の事業となり、「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」第三期(最終年/556600本)と「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」第二期(333000本)の植林活動でした。

2002年度からはじまった植林プロジェクトでしたが、第1回の植林派遣団は2004年4月に実施されました。それ以来、植林活動の際の作業と防護の準備は呼びかけてきたものの、今回のような悪条件に遭遇したのは初めてでした。自然の猛威をまざまざと思い知らされました。そして、あらためて、砂漠化防止と植林が「闘い」であること、流暢な議論の余地が無いほどに深刻であることも知らされました。私たちの植林地、寧夏の沙漠地帯は、日本へ春に飛来する黄沙の発生地でもあります。対岸の事態ではないことを痛感させられました。

今年度の植林活動をもって、2004年に既に終了している「寧夏・紅寺堡プロジェクト」290ヘクタール、「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」290ヘクタール、「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」200ヘクタール、都合780ヘクタールでの植林を終えたことになりました。

今年の9月には、「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」終了を記念しての「友の会」の訪問団が第8回植林派遣団(補植)と合わせて実施予定ですが、事態の深刻さは、わたしたちの活動の継続を求めているようです。



緑の架け橋推進センター

中国植林緑化活動協力事業

寧夏日中青年平羅県生態緑化林事業/日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333辻ビル405 TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079

口座:中央労働金庫市谷支店(普)10858119 郵便:00130-9-425994

※本会報は事業主催(IFCC)の植林プロジェクト特集となります。



中国側カウンターパート・中華全国青年連合会
張曉蘭副主席らと 2007/4/16 北京

友好交流こそ、 平和と環境問題の解決の道！

会長 佐藤晴男（第7回派遣団団長）

今年の春も緑化植林派遣団は、寧夏自治区の中衛市と、平羅県で、地元の人達と記念植林を実施しました。併せて3ヵ年の植林事業の終了した呉中市紅寺堡の生育状況と灌水等の管理状況を踏査してきました。

今年の4月中旬の気候は今までに経験したことのない、砂嵐が吹きすさみ、寒風も厳しい等、自然の猛威を知らされた中での開工式と記念植樹の実施となりました。

一方、紅寺堡の植林地では成育管理体制が補強されており、管理小屋の設置と常駐の管理人の配置して、灌水や除草等を適宜実施しており、日本との植林交流記念のモニュメント的役割の植林地にすると決意も、具体化されていました。今後とも、一層注視して支援体制が必要かもしれない。

毎年、黄砂の飛来はいつこうに静まろうとしなればかりか、砂漠化も拍車をかけようとする深刻さは依然として続いています。

中国大陸の広大さから見れば私たちの植林はまだまだ「点にしか」すぎない「線にし面する」願望からすればまだまだ多くの年月と資金を要することになるでしょう。

しかし、寧夏自治区や、全青連の人達との友好交流は、植えた樹々が大きくなるのと同様に確実に前進、拡大しています。

この友好交流こそ、平和と環境問題が国境を越えて解決するすじであろうと確信をもって活動を続けたいし、多くの仲間に参加を呼びかけたいと思います。

緑の平和使節団を自負して

～「友の会」記念訪問にご参加ください～
緑の架け橋推進センター
事務局長 石川 昇

地球環境の悪化が進む中、1998年の長江流域などの大洪水発生を契機に中国での緑化支援事業として日中政府間の取り決めを受けて、2002年11月にNGO組織として発足したのが「緑の架け橋推進センター」でした。

この間、趣旨に賛同する団体、個人の熱い支援の中で04年4月の第1回緑化派遣団から今年4月までに7回の派遣を行い延べ118名が参加し、寧夏回族自治区内に780ヘクタールの植林を行ってきました。この面積そのものは砂漠化地域だけでも2億6200万ヘクタール（日本国土の約7倍）を擁する広大な中国の面積からするとほんの点にしか過ぎません。しかし、このプロジェクトを通じカウンターパートとなっている中華全国青年連合会を始め寧夏の人民政府、地元の自治体関係者や青年連合会、党の関係者、そして、実際に植林事業に参加する小中学生など地元住民の皆さんとの交流はかけがえのない「緑の平和の使節団」になっています。

このことは、市民レベルの交流によるアジアの平和、ひいては世界の平和につながるものと自負しています。

現在「緑の架け橋推進センター」では、2つの緑化のためのプロジェクトを抱えています。平羅県での生態緑化林事業は、3年間で290ヘクタールを植林するもので、この4月で完了しました。9月の補植事業でプロジェクトが終了することになります。中衛市での生態緑化モデル事業は、3年間で300ヘクタールを植林するもので来年完了する予定になっています。

中国は悠久5000年の歴史を擁する大国です。日本とは一衣帯水の関係にある隣国です。派遣団の目的に中国文化との交流もあります。きつい日程の中で、北京、寧夏自治区、西安など訪れ中国文化の一端に触れています。今年は9月20日から6日間、派遣することになっています。既に完了した呉中市紅寺堡の生態緑化プロジェクトの点検も行う予定です。

「緑の架け橋友の会」会員をはじめ関係団体の皆さん、趣旨に賛同する皆さんの熱い参加をお待ちしています。

第7回植林緑化派遣団（2007年4月13日～4月17日）活動報告

第7回植林緑化派遣団は、4月13日（金）～17日（火）までの5日間の日程で実施され、東は青森から南は沖縄まで全国各地から12名が参加しました。

今回の主な活動目的は、2年目の「日中青年婦寧夏中衛緑化モデル林事業」における植林活動と最終年度となる「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」における植林活動でした。

4月12日（木） 結団式・壮行会

16時にホテル・ルポール麹町に集合。事前学習会、結団式、壮行会を行い、終了後成田へ移動。

4月13日（金）北京市内見学後、銀川へ向かう

7時、ホテルのロビーに集合し成田空港へ。到着後、手続きを済ませ9時30分北京へ出発。中国時間13時（日本とは1時間の時差）北京空港へ到着。現地案内人の劉さんと合流し、移動のバスの中で現状の中国の説明を聞きながら「中国人民抗日戦争纪念馆」「盧溝橋」を見学。空港で夕食を済ませ、20時、銀川へ向かう。22時、銀川空港に到着し現地の関係者と挨拶を交わし、ひとまず記念撮影。23時ホテル到着。

4月14日（土）中衛市での植林活動と紅寺堡で植林の育成状況の確認

8時、ホテル出発。現地に10時30分到着。当日の天候はこれまでの活動には無かった「砂嵐」という状況。ひどい気象状況にもかかわらず、約1000名の現地の方に歓迎を受けた。式典において、佐藤団長は挨拶の中で「温首相が来日し、日中関係が改善に向かう中、日中植林プロジェクトを通じ環境問題を改善し、更に木を根付かせるように友好も深めていきたい」と述べた。その後、参加者の名前の刻まれた記念石碑の前で記念撮影を行い、子供たちと植林活動（ポプラ）を行い11時30分終了。

12時より中衛市共産党の馬常任委員、代副市長など現地関係者と歓迎昼食会。地元名産のクコの実ワインで乾杯。

14時、現地関係者と共に観光地の沙坡頭へ移動。

目の前は大黄河！鳥取砂丘の雰囲気（？）の場所で「砂ソリ」を体験し、砂漠の一端を肌で感じる。

16時より紅寺堡へ移動し、植林の育成状況を確認。18時より地元・共産党の華書記、丁常任委員などによる歓迎夕食会。銀川のホテル着が21時。

4月15日（日）平羅県での植林活動

8時、ホテル出発。9時30分、現地の管理室でこれまでの成果等の説明を受ける。平羅県の植林地は黄河岸の砂礫地のため、前日の中衛のような砂嵐では無かったが、かなり寒い状態で10時より式典開始。現地の参加者は、約300名。石嘴山市の劉副書記が地元を代表して歓迎の挨拶を述べた。10時30分から現地の子供たちと植林活動を開始。体を動かす事によって寒さは解消したが、言葉が通じず四苦八苦。なぜか英語で会話をする参加者も（笑）。

12時より石嘴山市の于副主任、楊青年連合会主席などの関係者と歓迎昼食会。佐藤団長は挨拶の中で「今年3年目（最終年）を迎えた植林事業が、点から線、更に面になるように発展する事を願い、今後とも交流により日中の友好を深めたい」と述べた。

宴席では、中学校の先生による歌や小学生の楽器の演奏など生の中国の文化に触れただけでは無く、日本文化のカラオケも「お互いに披露する」など、楽しい時間を過ごした。

16時、西夏王陵を見学。昨日の沙坡頭も含め、相変わらず日本人の居ない観光地に驚き。銀川市内に戻り、中国寺院の海宝塔を見学。市内で夕食後、20時ホテル着。



紅寺堡の保育状況視察（第三期分） 2007/4/14 紅寺堡

4月16日（月）北京市内見学と中華全国青年連合会へ表敬訪問

8時、ホテル出発。現地の関係者に見送られ一路北京へ。12時北京空港着。昼食を済ませ、故宮博物館を見学。通常3時間は要する場所であったが90分で通過(?)。その後、天安門広場で記念撮影。「緑の架け橋」の横断幕を広げたところ、警察官が集まってきて危うく連行されそうに(笑)。

16時、中華全国青年連合会へ表敬訪問。張副主席の歓迎の挨拶の中で「昨年4月の安倍首相の訪中、今4月の温首相の訪日により日中関係の改善が急速に進んでいる。緑の架け橋推進センターによるプロジェクトの派遣団の訪中は非常に重要な事であり人的交流を深めることの大切さを意味している。」と述べた。このことを受け佐藤団長は、全青連の活動や各地区での樹木の管理状況の良さを評価し、日中の更なる友好について「温首相の訪日により、小泉前首相が作った氷が溶け、木を育てるには十分水がある環境になった」と表現しました。

17時、雑技団のショーを見学し、全青連の湯副秘書長、洪部長、陸部長らと本場の北京ダックで夕食会。

22時、ホテルの喫茶コーナーで解団式。参加者の感想などを話し合い、23時終了。



砂塵の中での第三期植樹式 2007/4/14 中衛市



砂塵の中での植林活動 2007/4/14 中衛市

4月17日（火）日本へ

前日遅かったにもかかわらず、7時出発。渋滞に巻き込まれ空港までに1時間を要した。8時北京空港着。劉さん、中青連の閻さんに見送られ出発ロビーへ。

14時、成田着。団長の挨拶後、解散。



平羅県での第三期植林活動 2007/4/15

第7回植林緑化派遣団参加者（12名）

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
佐藤 晴男	当センター会長	今出川 弘	自治労・青森	内田 郁男	自治労・長野
鎌田 篤則	I FCC	伊藤 茂樹	自治労・山形	松村 元雄	自治労・長野
武田 久信	全農林・青森	佐藤 一博	自治労・新潟	多田 文彦	自治労・大分
福田 勤	全農林・長崎	安元 俊博	自治労・富山	東門 利美	沖縄